

漢方治療の前に化粧・飲食は禁物

Q 漢方治療を受けるために患者として注意すべきことはありますか。

A 漢方では顔色、脈、舌を診たり、おなかを按（あん）じるなど五感で処方を決める。患者さんにもいろいろ注意していただきたいことがある。

例えば、望診という目でみる診療では顔色や皮膚のつや、目のまわりの隈（くま）、唇の色を診る。従って、特に女性は化粧をしないで診察室に入っていたきたい。望診に舌診といって舌を診る診察がある。舌苔（ぜつたい）は消化器機能や熱性疾患の治療方針を決める大切な情報である。歯ブラシで舌苔を落とすべく、とといったことはやめてほしい。

問診は漢方独特の症状・兆候を聞くことが多い。例えば、のどが渴いて水分を飲みたがる口渴と、口内を湿らすだけで水分を飲むのは好まない口乾では処方が全く異なる。また患者さんの言葉の中に治療のヒントが含まれている。自分がどうつらいのか、ありのままに言っていたきたい。小児の場合、診察室で「おとなしい」か「じつとしていられなくて動き回る」かも処方を決める参考になるので、母親は子供の自然体を診せるように心がけていただきたい。

食事が腹診に影響するので診察の直前の飲食は控える。また、腹診では下腹部の圧腹も診るので、診察の前にトイレを済ませておいていただきたい。西洋薬や漢方薬が既に出されている場合は必ずお聞きするので、実物を持参してほしい。